

・全世界のポリオ流行状況

2014 年、WHO はポリオの流行が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」であるとの宣言を出しています。2019 年 5 月に行われた WHO の会議でも、この状態が継続していることが確認されました (WHO statement 2019-5-29)。とくにパキスタンでは今年になり患者数が増加しており、6 月中旬までに 24 人の患者が確認されています (Polio Global Eradication Initiative 2019-6-19)。隣国のイランでも、パキスタン国境近くからポリオウイルスが分離されました (WHO Outbreak news 2019-5-21)。また、アフリカ中部のナイジェリア、コンゴ民主共和国などでもポリオ患者の発生が報告されています。こうした患者発生のみられる国に滞在する際には、ポリオワクチンの追加接種を受けておくことを推奨します。

・アジア:ネパールで鳥インフルエンザ(H5N1 型)の患者が発生

ネパールのカトマンズで 19 歳男性が鳥インフルエンザ(H5N1 型)を発症したことが明らかになりました (WHO avian influenza 2019-5-10)。同国では 2 月から家禽類の間で鳥インフルエンザが流行しており、この患者も生きた家禽を販売している市場に立ち入り、感染した模様です。H5N1 型の鳥インフルエンザ患者は 2015 年頃までアジアやエジプトなどで多発していましたが、最近は発生が少なくなっていました。今回の事例はネパールで初めての患者になります。

・アジア:東南アジアでデング熱患者が増加

今年はアジア各地でデング熱の患者数が増加しています。マレーシアで 5 万 2000 人、フィリピンで 7 万 7000 人、ベトナムで 5 万 9000 人、タイで 2 万 8000 人と、昨年の 2~3 倍の患者数になっています (WHO 西太平洋 2019-6-6, Outbreak news today 2019-6-15)。シンガポールでも 5,000 人以上の患者が発生し、5 人が死亡した模様です (Outbreak news today 2019-6-20)。東南アジア各地はこれから本格的な雨季を迎えるため、滞在中は蚊に刺されない注意を心がけてください。

・アフリカ:コンゴ民主共和国とウガンダでのエボラ熱流行状況

コンゴ民主共和国の北東部では 6 月も毎週 80 人前後のエボラ熱の患者が発生しています (WHO Outbreak

news 2019-6-20)。6月10日には隣国のウガンダから流行地域に入国した5歳男児が、帰国後にエボラ熱で死亡しました(WHO Outbreak news 2019-6-12)。同行した家族2人も発病し、このうち1人が死亡しています。その後、ウガンダ国内では接触者の監視が行われていますが、今のところ新たな患者の発生はみられていません(WHO Outbreak news 2019-6-20)。こうした流行の拡大を受けて、WHOは6月14日に緊急会議を開催しましたが、今回のエボラ熱の流行は「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」にはあたらないとの結論でした。

#### ・北米: 米国での麻疹の流行

米国で発生している麻疹の流行は6月も続いています。最近1ヶ月で患者数は約200人増加し、6月中旬までに1044人になりました(米国CDC 2019-6-17)。患者の発生はニューヨーク市で多く、ユダヤ人コミュニティーを中心に600人近くの集団感染がおきています。日本では30歳代~40歳代の世代で麻疹の免疫が低下しているため、この年齢の人がニューヨーク市に滞在する際には麻疹ワクチンの接種を受けておくことを推奨します。

#### ・南米: ペルーでギランバレー症候群の患者が増加

ペルーの首都リマなどでギランバレー症候群の患者が増加しています。今年は6月中旬までに昨年の倍以上の548人の患者が確認されました(ヨーロッパCDC 2019-6-20)。とくに6月になり患者数が増加しています。ギランバレー症候群は神経疾患で、感染症を契機に発症することがあります。とくに、蚊に媒介されるジカウイルスや食中毒を起こすカンピロバクターは、その原因として多いものです。ペルーに滞在中は蚊に刺されない注意とともに、飲食物への注意も心がけましょう。